

丹後農業実践型学舎研修情報（10月）

- ダイコン、聖護院カブの間引きや農薬散布を行い、収穫までの管理を実習した。
- カンショを収穫、調製し、加工業務用として出荷した。
- 「土壌肥料3」「害虫防除」「野菜各論（果菜類）」「マーケティング論」を受講した。
- マーケティング論フィールドワークとして、京都市中央卸売市場、JA 京都やましろ 九条ネギ調整包装施設、茄子選果場等を見学した。
- 丹後加工契約野菜部会交流会、加工キャベツ出荷目合わせ会に参加した。



カンショ 収穫



カンショ 出荷調製



座学：土壌肥料3



座学：害虫防除1



マーケティング論フィールドワーク



加工キャベツ出荷目合わせ会

研修を通じての学舎生の所感（抜粋）

マーケティング論で市場に行き、市場のしくみや物流のことがよくわかった。また、他の生産者がどのように経営しているかも話が聞けて今後の参考になった。

フィールドワークでは、市場や加工施設等を見学し、良い野菜を作りたいという意欲が一層強くなった。

講義では、土壌肥料や害虫防除に関する大切な講義が多く勉強になった。

講義では、ウリ科のカボチャを今後も栽培していこうと思うので、カボチャの栽培について復習できたことは有意義だった。その他、メロンやスイカにも興味が持てたのでしっかりと栽培方法を理解しようと思う。

カンショの収穫は一人でもできるが、面積が広い場合一人では収穫が追いつかないので、労働力を如何に確保するかも考える必要があると思った。

カンショの収穫は時間がかかり、人手が必要だった。ツルを切りコンテナに入れていった方がコンテナ数が少なくてすむことがわかった。

カンショの出荷調整は、スムーズに作業ができるようにセッティングしないとやりにくかった。

ダイコンも聖護院カブも何度やっても間引く速度が速くならないと思った。一つ一つを正確にやりながら作業速度を速められるようにならなければ全てのスケジュールがずれ込むので、期間内に全てが終わるように作業速度を考えて計画を立てていきたい。

ダイコン、聖護院カブの間引きも終わり出荷が近づいてきたのでカンショの出荷を早めに終わらせたい。またキャベツの生長が芳しくないが追肥などできることをしていきたい。